

談話室

女優

田丸 麻紀さん



profile

大阪府出身。帝京短期大学生生活化学学科卒業。オスカープロモーション所属。'95よりトップモデルとして活躍。'03女優宣言。現在、「新選組!」(NHK)や「笑いの金メダル」(ABC)などに出演中。

——女優になられたきっかけは？

8年間モデルをやっていたんですが、まず、モデルという雑誌の中で止まっているだけの仕事から、飛び出してみたいという気持ちがありました。それに、モデルの仕事では、「きれい」だったり「幸せ」や「楽しい」だったり、そこで表現できる感情が、どうしても偏りのあるものになってしまいます。もうちょっと、人間らしい喜怒哀楽を使った表現をしてみたいという思いが、女優という仕事につながったんです。

——学校の勉強は？

本当に勉強しない子でしたね。でも、最近あるクイズ番組で、分数の式をだれよりも早く解いて正解したんです。たかが分数なんですけど、それを解けたという自分にちょっと驚いてしまって。普段やっていなくても、覚えていたというか、体のどこかに残っていたんだと。

勉強したっていう記憶はないにしても、いろんな教科の中では、数学は比較的好きなほうだったんです。それに、数学の先生は好きでしたね。

——どんな感じの先生でしたか？

小学校から短大までいろんな数学の先生がいらっしやいましたけど、一貫して好きだったのは、数学の先生は、話があっちこっち行かないというか、ちゃんと構成された話をしてくれたこと

ですね。それが数学と関わっているのかはわかりませんが、親しく雑談なんかするのは、数学の先生が一番多かったです。周りの人たちには、わりと論理的なものを求めているのかもしれない。

——試験などはいかがでしたか？

一応、卒業できるぎりぎりくらいの成績はとっていたんだと思うんですけど…。あまり試験勉強はしませんでしたね。でも、サインとかコサインとか、あのあたりはすごく好きでした。確か、100点に近いぐらいの点数だったんですよ。

——高校時代は、どんな生徒でしたか？

大阪弁で「いちびり」という言葉があるんですが、それがすごくぴったりだったし、自分でもしっくりくるなと思います。まじめな生徒ではありませんでしたが、毎日をもっと楽しくしていましたね。それには自信があります。モデルの仕事もやっていたから、めまぐるしい高校生活ではありましたが、校風が自由だったこともあって、のびのび過ごしていました。

——高校の数学の先生にメッセージを。

学生のときは、授業中というのは眠いものだったので、できるだけ楽しい授業をしてくれる先生が人気がありました。テストなどを重視するよりは、おもしろさを重視して授業をしてくださる先生がいっぱいいたらいいなと思います。好きな先生の授業は、やっぱり好きになりますから。

それと、当時はほうっておかれることがすごく楽しかったんです。「起きろ」とも言われず、「これやってこい、あれやってこい」とも言われず…。ついてこられる子だけがついてくるっていう状態になってしまうのは仕方がないことだと思いますが、でもやっぱり、ほうっておかれるってつらいです(笑)。卒業してからそう思いましたね。

——将来の夢や目標は？

末永くこの仕事とかかわっていくことが夢です。なによりもまず、女優としてすごしたいと思うんです。その中で、一つのイメージに染まることなく、喜劇や汚れ役にも挑戦していきたいです。大阪弁の芝居も一度は通過してみたいなと思っています。